

低学年授業改善プラン

	児童の課題	改善策
国語 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ・促音や拗音に気を付けて読むこと。 ・読書習慣を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや話し合いの機会を充実させ、自分の考えを伝えることの楽しさを感じられるようにする。場面に合わせた声の大きさ(声のものさし)のポスターを教室に掲示し、相手をはっきりと聞き取れる声の大きさを継続的に指導する。 ・「書くこと」は、簡単な構成を考える活動を重視する。作文指導は、簡単な構成を考える活動を重視する。自分の考えを明確にするために、集めた事柄をメモにして、並び替えるなどする。 ・音読カードを活用して、音読を家庭学習でも学習できるようにし、継続的に行う。一人読み、一斉読み、群読、暗唱など様々な読み方を取り入れ、読む機会を増やす。言葉探しなどのワークシートを活用し、楽しく遊びながら言葉を学習できるようにする。 ・促音や拗音は、手を使って音の動作化を繰り返し行い、遊びながら読み方を身に付けることができるようにする。 ・保護者や教師による読み聞かせを行い、読書の楽しさを実感させる。図書の時間を充実させ、教師によるブックトークや、児童が本を紹介し合う活動を取り入れる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ・相手に伝わるように、自分の行動や経験に基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ・文と文のつながりに注意しながら内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫すること。 ・文章を読み、分かったことや感想を伝え合うこと。 ・読書習慣を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手を見ながら集中して聞くことを継続的に指導する。その際、話し手の考えに対して感想を述べたり質問をしたりする活動を多く取り入れ、相手の話に関心をもって聞くようにする。 ・スピーチや話し合い活動等、話す場面を多く設ける。その際、内容が相手に伝わるように組み立てメモや話型を活用して、事柄の順序を整理して話すように指導する。 ・相手に応じた言葉遣いについて適宜指導し、自らも意識して話すという活動を重ねる。 ・姿勢や声の大きさ、速さに注意してはっきりした発音で話すことができるように継続的に指導する。 ・句読点の使い方、助詞の使い方、「」(かぎ)の使い方など、文章表現をする上での基本を丁寧に指導する。 ・「始め・中・終わり」の文章構成を、教科書の文章から学び、作文などの表現活動を通して定着させていく。 ・書いた文章を読み返す習慣を付け、自分で間違いに気付かせるようにする。 ・小テストや漢字ドリルを活用して、正しい漢字の書き方を定着させる。 ・教科書の文章で読み取り方や感想の書き方を学び、他の文章においても習得した力を活用して自分で学習を進められるようにしていく。 ・保護者や教師による読み聞かせや、図書の時間を充実させて、様々なジャンルの本に親しむようにする。
算数 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能が定着すること。 ・思考力・判断力・表現力等を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算とひき算の計算について、カードやプリント、ドリルなどを用いて、繰り返し練習に取り組む。児童の実態に合わせて、指を使ったりブロックを使ったりしながら習熟を図る。 ・既習事項をしっかりと振り返り、課題について既習の事柄を用いて発展的に考えられるようにする。 ・自分の考えを表現したり友達考えに触れたりできるように、授業の中で児童が友達と交流できる時間を確保する。 ・問題を読んだりイラストを見たりして、「なにが」「どうしている」など、問題場面について話し合い、共通のイメージをもって立式できるようにする。 ・式に合う話や問題を作る活動を通して、たし算やひき算の意味理解を確実

	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動の楽しさに気付くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> にする。 ・今まで取り組んできた問題と似ている場面を探したり、同じ考え方で解決できるかを考えたりしながら、見通しをもって課題を解決できるようにする。 ・演算決定の理由や解き方を、ブロックやおはじきなどの具体物を用いて説明できるように、操作する時間を十分に確保する。 ・児童の実生活の場面に関わる数量や場面を用いて、教師が本時の課題を設定したり、児童が問題作りをしたりする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本となるたし算・ひき算の筆算や九九がしっかり身に付くこと。 ・数量や図形の学習の内容について、理解できるようにするとともに量感をもつこと。 ・自分の考えをもち、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのある加法・繰り下がりのある減法や乗法九九の計算の仕方を理解させる。ドリルやプリントでの反復練習後、たしかめプリントを解かせ、その結果により補習を行い、知識及び技能を身に付けさせる。 ・具体物を使って数学的活動を通して理解を確実にしていく。mm、cm、m、mL、dL、Lなどの単位の相互関係をきちんと理解できるようにする。 ・演算決定の理由や解き方を考えさせ、絵や図を描いて、既習事項をもとに児童自身が自分の考えをもてるようにする。友達の考えを聞き、相互評価することで、自分の考えを説明する仕方を身につけさせる。
生活 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々に関心をもち、ふれあう経験を増やし、楽しく安心して遊びや生活ができること。 ・身近な自然に触れ、遊ぶことで、季節の変化に気付き、自然を利用した楽しい遊びを工夫することができること。 ・昆虫を飼ったり、植物を育てたりして、生き物への親しみをもち、大切にすることができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検を通して、人との関わりを増やす。自分たちの生活を支えてくれている人の存在に気付くようにし、安心して学校生活を送れるようにする。保育園児を招待して一緒に遊ぶことで、自分のことだけでなく、相手の立場に立った活動を考える機会を設ける。 ・節句や伝統行事、伝承遊びなどを通して季節の移り変わりを体験する機会を設定する。また、裏庭探検や公園に出かけるなどして、昆虫や草花などの自然と触れ合う機会を多くとる。 ・ダンゴ虫やバッタ、コオロギなどの昆虫を飼う経験や、アサガオを育てる経験を通して、昆虫や植物の成長の変化や様子に関心をもち、それらが生命をもっていることや成長していることに気付き、大切にすることを育てる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を栽培したり昆虫を飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にすること。 ・地域で働いている人々と接し、考えたことを伝え合う活動を通して、自分たちの住む町に親しみや愛着をもつこと。 ・動くおもちゃを作ったり遊んだりする活動を通して、工夫することの面白さや自然の不思議さに気付くことができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培や飼育への意欲を高めるために、野菜や昆虫といった学習対象を自己選択・自己決定する場面を設定する。 ・友達に伝えたいという思いを実現したり、新しいことに気付いたりするために、変化や成長を伝え合う時間を作る。 ・地域を身近なものにするために、同じ場所や同じ人々と繰り返し関わる単元構成にする。 ・地域の場所や人に親しみや愛着をもっている児童の姿を具体的に想定する。 ・安全に気を付けたりマナーを守ったりして地域の場所や人と接することができるようにする。 ・気付いたことを基に考えることができるように、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの活動の充実を図る。 ・遊びを発展させる中で気付きの質を高めるために、コーナーを分けたりグループリングを変えたりするなどの環境構成を工夫する。
音楽 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の雰囲気を感じ取って表現すること。 ・鍵盤ハーモニカに親しみ、リズムに合わせて演奏すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れに乗って表現の仕方を工夫する学習に重点を置いた指導を進める。①身体表現②言葉や手拍子を組み合わせたりリズム遊びなどを取り入れ、表現を広げるための技能を身に付ける。 ・簡単な打楽器に親しませ、リズムに合わせて合奏できるようにする。 ・音の高低を感じ取りながら歌ったり演奏したりできるように取り組む。 ・専門の講師を呼んで講習会を設けるなど、鍵盤ハーモニカの音色に関心をもたせ、タンギングなどの基本的な奏法を身につけるようにさせる。また、副教材の楽曲では、一人ひとり検定を行い、繰り返し練習する機会をもつ。教え合いの場面を多く取り入れる。 ・音楽会に向け、鍵盤ハーモニカや打楽器に触れる機会を多く設ける。

2年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分を感じ取り、思いをもって表現すること。 ・身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて演奏すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の高低を感じ取りながら歌ったり演奏したりできるように、身体表現を使うなどしながら階名唱に取り組む。 ・拍のまとまりや拍子の違いを感じ取るために、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり聴いたりする。 ・鍵盤ハーモニカの基礎的な奏法を段階的に指導する。異なる曲想の曲の演奏に取り組む、音色などの違いを楽しむことができるようにする。 ・リズム譜を見て歌ったりリズムを打ったりする活動を通して、拍の流れの流れて演奏することに慣れ親しむようにする。 ・打楽器の音色の違いを楽しむことができるように、一人一人が打楽器に触れる機会を設ける。
図工 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で表すことの楽しさや、友達の作品を見ることの面白さを味わいながら、作り出す喜びを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で、心に残った出来事や身近なことを題材にして、様々な材料や用具にふれ、その特性を生かして作品を作ることを楽しめるようにする。 ・友達と表現したいことを出し合うことで、イメージを膨らませ、表現したいことを見付けることができるようにする。 ・物語の好きなところを選び、想像力を働かせて描きたい場面の様子がわかるように工夫して表現できるようにする。 ・友達の作品を見る時間を取り、友達の作品の面白さを感じ取り、作品を鑑賞する楽しさを味わう。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れ、自分の表したいことに生かすこと。 ・身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から、いろいろな材料を探し、素材を生かした作品を作る造形活動を計画的に行う。 ・基礎的な用具の扱い方を繰り返し指導し、習得できるようにする。 ・友達の作品を見て回る時間を大切に、鑑賞の面白さや大切さ、貴重さを感じ、自分の作品に生かすことができるようにする。
体育 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって運動すること。 ・友達と楽しく運動すること。 ・基本的な動きを身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びにおける自分のめあてを選び、すすんで取り組む。 ・ルールを守ることや協力して遊ぶことで、友達と関わり合って運動することを楽しむ。 ・さまざまな運動を通じて体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができるようにする。 (体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動き)
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって運動すること。 ・いろいろな運動遊びを通して楽しさを知り、基本的な動きを身に付けること。 ・誰とでも仲良く運動できること。 ・意欲的に運動に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びにおける自分のめあてを選んで、友達と関わりながらすすんで取り組む。 ・運動遊びでは、固定施設を使って体のバランスをとる、用具を操作する、体を左右、ジグザグに移動する、前方や上方に跳ぶ、水の中を移動したりもぐったりする、ボールの操作をするなどを行い、楽しみながら様々な運動経験をさせ、基本的な動きを身につけるようにする。 ・鬼遊びやゲームなど、ペアやグループを中心に話し合いながら関わり合っ て取り組める活動を多く取り入れる。 ・遊びやゲームを通して、順番やきまりを守ることや協力して仲良く勝敗を競うことの大切さを経験できるようにする。 ・運動に苦手意識がある児童には、内容を易しくしたり、恐怖心を感じにくい教具を用意したり、友達の真似をする機会を設けたりしながら、前向きに運動することができるようにする。

	児童の課題	改善策
国語 3年	<ul style="list-style-type: none"> 文章のまとまりを意識して、正しく文章を書くこと。 原稿用紙の使い方を正しく文章を書くこと。 登場人物の気持ちなどを、叙述を基に想像すること。 漢字を正しく読み書きし、活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の後に作文を書く際に、初め・中・終わりの組み立てを正しく文章を書くことを通して、文章のまとまりを意識して文章を書く習慣を付ける。 「本で調べて、報告する文章を書こう」の単元のまとめで、原稿用紙に文章を書いたり、その際に「書くて楽しいね」を参考にしたりするなどして原稿用紙の使い方を定着させる。 物語の叙述から、どのような行動・気持ちが読み取れるか考え、ノートに書き、友達と伝え合う活動を取り入れることで、叙述からイメージをより広げることができるようにする。 漢字練習ドリルの練習に繰り返し取り組んだり、間違った漢字を適切に直したりすることで正しい読み書きを定着させる。 文章を書くときは、既習漢字を使うことを指導し、既習漢字の活用力を高める。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 話の中心に気を付けて聞き、自分の考えと比べたり、自分の考えを深めたりすること。 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合いをすること。 自分の意見とその理由を区別して書くこと。 漢字を正確に書き、文や文章の中でも使うこと。 ローマ字を書いたり読んだりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業をはじめ、朝の会・帰りの会でも聞く活動を多く取り入れ、要点を落とさず聞く力を育てる。 話す際は、伝えたいことを明確にし、理由とともに話すようにする。 紹介文、感想文、新聞など、さまざまな言語活動を取り入れ、目的に応じた文章を書く学習を積み重ねることで自分の意見とその理由を意識して書けるようにする。 漢字小テストを定期的に行い、書けなかった漢字は繰り返し練習をさせ、定着させる。 タブレットでローマ字入力の練習をさせたり、身近なローマ字の言葉を読む・書く練習をさせたりして、ローマ字を使えるようにする。
社会 3年	<ul style="list-style-type: none"> 方位磁針を使って四方位を読み取ったり、地図にでてくる方位や地図記号を理解したりするとともに、地図上の事柄を具体的に考えられる地図の読み方を身に付けること。 地域の生産・販売の様子から学習の問題を見出して、追究していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 方位磁針を使うときには、体の向きから北を基にして具体的に方位を考えさせる。また、まち探検や大田区内めぐりの機会を生かし、観察の視点や調査の目的を明確にもたせることで、地域の場所による違いや特色に気付かせ、地図との関連性をつかむことができるようにする。 写真や文章資料を手掛かりに、地図から大田区の特色を調べる学習を取り入れる。 スーパーマーケット見学や工場見学を実施し、観察する視点を明確にもたせる。学習問題を作る時は、分かりやすい資料を提示する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、自分事としてとらえ、自分の考えをもつこと。 グラフや地図など、資料の読み取り、読み取ったことを伝えること。 伝統芸能を受け継ぐ人たちや、地域の人たちなどの思いや願い、努力について理解すること。 年間を通して47都道府県の名前と位置を覚え、生活の中で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の周りのごみや水の問題など社会的事象から、自分たちで学習問題を設定する。学習問題が解決できるように、教科書や資料で調べ学習を行い、分かったことをノートやワークシートにまとめる。 資料を読み取る機会を増やして活用に慣れさせる。資料を読み取る視点を明確にして指導し、読み取った内容をノートに記したり発表したりする時間を十分に確保する。また、ペアやグループで読み取る機会も増やし、読み取ったことを伝え合う場面をつくる。 総合的な学習の時間と合科的に学習をすすめる。 実際にインタビューする機会を多くもったり、映像資料を活用したりすることで、その方々の思いや願い、努力が身近に感じられるようにする。 各授業で都道府県に関連する内容を取り上げ、都道府県の名前や位置を思い起こすようにする。ワークシート等で地図記号

		や地名など覚えておくべきものを継続的に指導する。
算数 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的思考力が問われる文章問題を理解すること。 ・除法の意味や計算の仕方について理解すること。 ・分数が用いられる場合や分数の表し方について知り、分数の意味や分数の加法、減法の意味について理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使用したり文章問題の場面設定を絵に表したりして、視覚的に理解したり順序立てて考えたりする活動を増やす。 ・「分ける」とことは、同じ量や数に分けるという意味であることをとらえさせる。そのために具体物を使って分ける操作を繰り返し行わせたり、絵や図を描かせたりしながら式をたてるように指導する。 ・mやしなどの量の単位を図や数直線を使い、はしたの数を視覚的にとらえ考えるようにさせる。自力解決や話し合いによって様々な解決方法があることに気付かせながら計算の意味や立式ができるように指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・分数や小数の意味と、大小を理解すること。 ・分数の加法、除法の計算の仕方について理解し、計算すること。 ・長さや重さにおいて、身近にあるものの重さを推察すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数や小数について、大きさを理解したり、大小関係を理解したりできるよう、数直線を効果的に活用し表現したり説明したりする経験を増やす。 ・分数の種類(真分数、仮分数、帯分数)の違いを明確にし、相互変換できるようにする。また、計算力の定着を図るために練習問題を定期的に取り入れる。 ・実物や身近な具体物を通して、長さや重さを推測する機会を増やす。
理科 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心・意欲を高めること。 ・科学的思考・表現力を高めること。 ・予想を立て、結果・考察を発表し伝え合うこと。 ・昆虫や植物の体のつくりや影と太陽の関係について理解できること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察など体験的な活動や今までの経験などを想起し話し合う活動などを多く取り入れる。 ・自分の考えを実験・観察に生かし、与えられた実験をするだけでなく、児童に実験の条件や方法を考えさせたり、話し合わせたりして問題解決の能力を少しずつ向上させる。 ・計画的に観察・実験を行い、分かったことを自分の言葉でまとめたり、どのような考察の書き方がよいのか全体で共有したりしていく。 ・理科用語を用いながら振り返りをさせたり、まとめさせたりするノートの書き方を指導する。学習プリントを用いて、知識の確実な定着を図る。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心・意欲を高めること。 ・季節ごとに自然の変化や生き物の様子を理解すること。 ・水の三態変化を理解すること。 ・金属、水及び空気の温まり方や体積の変化を実験し、理解できること。 ・自然事象についての知識・理解を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の仕方を実物や映像を見せるなど工夫し、児童の学習意欲を高める。 ・年間を通して児童が自分で選んだ同じ樹木や生き物を観察させ、それらの変化を捉えさせる。 ・「自然の中の水」の学習と関連付けて学習する湯気と水蒸気の違い等、混乱しやすい事項が多いため、それぞれの水の状態について実験を通して実感を伴って理解できるようにする。 ・経験や既習学習を生かして、ものの温度と体積の関係を考えさせるために、問題、予想、実験、結果、考察、まとめの学習活動の流れを定着させる。 ・単元のまとめで振り返りの問題に取り組んだり、適宜映像を見たりして既習事項を振り返り、知識の定着を確実にする。
音楽 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの息の使い方とタンギングの仕方について理解し、正しい運指で演奏ができること。 ・呼吸や発音に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うことができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技能を身につけ、友達の音を聴き合いながら吹くことで、息の強さに気を付けたきれいな音で表現できるようにする。 ・階名唱の機会を多くもつことで、旋律の音の動きに気付かせ、子音・母音が明瞭で無理のない発声になるように気を付けさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや願いを演奏表現に生かすこと。 ・友達とかかわり合いながら一つの音楽をつくる喜 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の演奏や歌唱活動を通して、歌詞の意味や情景からどのように歌うかについて考えたり、曲の感じを生かすための演奏表現の工夫について基本的な技能を高めたりできる指導をしていく。 ・楽曲全体を繰り返し演奏するだけでなく、一部分を取り上げて、

	<p>びを味わうこと。</p>	<p>速度を落としたり、パートごとに演奏したりしながら活動を工夫し練習を重ね、それらの音を合わせたときの喜びを味わえるようにする。</p>
<p>図工 3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素材から自由に発想したり、作りたいものを思いついたりすること。 ・自分たちの作品や身近な美術作品などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材と関わる時間を十分に設け、素材のよさやイメージすること、作りたいもののイメージなどを子供達同士で共有できるようにする。 ・制作中は自由に移動してもよいことにしたり、席の配置を向かい合う形態にしたりするなど子供たちが自然と友達の作品を見ることができそうな場を設ける。 ・付箋で気軽に友達の作品にコメントをする時間を設けたり、友達に自分の作品を語る場を設けたりすることを通して、色や形に対する見方を深め、友達の作品のよさを感じ取る視点を養う。
<p>4年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動できるようにする。 ・用具や材料を安全で適切に使えるようにする。 ・自己肯定感をもてるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、児童が意思決定する機会を増やして主体的な活動を促す。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。 ・互いの作品を鑑賞する機会を設けて、友達の作品や表し方の良さや面白さを共有し、認め合えるようにしていく。 ・展覧会の出品作品を自分で選ぶようにして、より自信のある作品を発表していけるようにする。
<p>体育 3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてをもって運動に取り組み、めあてを達成させるために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場で運動したりすること。 ・体のバランスをとったり、基本的な技を組み合わせる運動をしたりすること。 ・運動に合わせて、規則を工夫したり、作戦を考えたりすること。 ・ボールを投げる運動、投力を高める運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域で振り返りカードを活用する。活動前には必ず本時の運動のめあてをもたせ、活動を終えるときには自分の取り組みを振り返らせるようにする。 ・ペアやグループの学習を意図的に取り入れ、お互いの運動を見合う機会を作り、考えたことや気付いたことを伝え合うようにさせる。 ・ICTを活用し、友達のいいところを見付けたり、手本として真似したりすることで技のイメージをもたせ、出来を確認する。 ・日常的に体を動かすことにより体力向上を図る。 ・「体づくりの運動」を重点的に指導をする。友達と手をつないだり、背中合わせになったりしながら、片足で立ったり、座ったりする運動や、平均台などを使った運動に取り組むようにする。 ・「ボール運動」ではチームや友達と協力して、ルールを考えたり、簡単な作戦を考えたりする活動を意図的に取り入れ、お互いに考えたことを伝え合うようにする。 ・遠くに投げることを意識できるように、手だけでなく、腰や肩を使った投げ方のフォームの指導や、場の設定を工夫して取り組むようにさせる。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで運動の仕方を工夫すること。 ・跳び箱運動など、腕で体を支える運動ができること。 ・投の運動技能を高めること。 ・体づくり運動を適宜取り入れ、体力を高めること。 ・持久力を高めること。 ・運動の楽しさを味わえるようにルールを工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能ポイントを図や写真、実演などで明確に指導し、ペアやトリオ、グループ学習を取り入れ、自分たちで運動の仕方を工夫できるようにする。 ・手の付き方や体を引き付けるタイミングなど、技能ポイントが自分では見えづらい部分が多い。友達と見合う際の視点をもたせたり、タブレットで自分の動きを録画したりして学習させる。 ・1学期のベースボール型のゲーム以外に、2・3学期にも授業を計画し、年間複数回学習する。 ・速さ、リズム、方向などを変えて這う、歩く、走る、跳ぶ、はねる、登る、下りるなどの動きで構成される運動や一定の速さでのかけ足などの運動を通して、体を移動する動きを身に付けるとともに持久力を養う。 ・男子は5分間程度、女子は3分半程度の持久走を計画する。 ・運動経験の差を考慮し、ルールを児童の実態に応じて変え、全員が運動の楽しさに触れられるようにする。
外国語活動 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ること。 ・基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりすること。 ・身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を示しながら話したり、視聴覚教材を工夫したりしながら、どのような時にどのような表現をするのか分かりやすく示すよう工夫する。 ・自分事として考えられるよう、身近なことを教材として考え、コミュニケーションをとる活動を多く取り入れる。 ・励ましの言葉や褒める表現を頻繁に活用し、児童に自信をもたせ、人前で話すことが楽しいと感じさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み方が発せられるのを聞いた際に、どの文字であるか分かること。 ・自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うこと。 ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生での既習であるローマ字を活用しながら、どのように読むか指導したり、フラッシュカードに文字を表記したりして、文字に慣れ親しむよう教材を工夫する。 ・伝えたいという気持ちになるよう教材を工夫する。既習事項を活かしてコミュニケーションを図る活動を頻繁に取り入れるようにする。 ・教師自身が自分の日常を英語で話すようにし、児童自身も自分のことを話したいという気持ちにする。

高学年授業改善プラン

	児童の課題	改善策
国語 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を聞き、メモをとること。 ・文の構成を理解すること。 ・指示語を理解すること。 ・既習漢字を書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い聞き方やメモの取り方を確認したり紹介したりして、意図を考えながら聞いたり、工夫しながらメモしたりするようにさせる。継続して取り組む機会を設ける。 ・連用修飾語について確認し、例文を示して考えさせたり、問題を出し合わせたりする。 ・説明的な文章の中で、「この」や「その」などの指示語が指す内容を考えさせる。 ・漢字単体で覚えるのではなく、送り仮名まで正しく書けるように、繰り返し練習する機会を設けるようにする。さらに、書けるようになるまで、漢字練習や漢字テストで漢字の確かめを継続していく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ・文章の内容を読み取り、他の例に当てはめて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くときには、相手の意図を考えながら聞くようにする。メモを取るなどの指導を行う。話し合いでは、目的や意図を押さえるとともに、自分の立場を明確にさせ、理由や意見をもたせる。必要に応じて話し合いの順序や方法を示しながら繰り返し取り組んでいく。これらを通して、適切に話し合ったり、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめて書いたりすることができるようにする。 ・説明文の内容を適切に読み取り、把握できるようにする。読み取ったことをもとに、具体例を考えたり、自分の場合に置き換えたり、他の例を考えたりすることを通して、理解を深める。
社会 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境や安全を守る活動について資料から考察すること。 ・年表を読み取ること。 ・索引を利用して地図を読み取ったり、地図記号や等高線などの知識を基に、まちの様子を把握したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識だけでなく社会的事象の意味や理由などを考え、記述、発表する機会を授業の中で増やしていく。 ・デジタル教科書や電子黒板などを積極的に活用し、視覚的にも理解しやすいよう、授業形態を工夫する。 ・地図帳や資料の使い方を復習するとともに、日常の授業において地図帳を積極的に活用する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の貿易相手国、自動車の生産過程に関する用語などの定着率が低いこと。 ・社会的事象の理由を考えたり、複数の資料を関連付けて、読み取ったりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科的用語の確実な定着を図るため、重要な用語は板書で色を変えるなどして児童に明示する。その意味を理解できるように、デジタル教科書など視覚的に分かりやすい工夫を取り入れる。 ・資料から読み取ったこと、そこから考えられることを分けて考えさせる。社会的な見方(時間的・空間的・関係的)・考え方(比較・分類、関連・総合)を生かして資料を読み取るよう指導し、定着を図る。
算数 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・億と兆の表し方について、位取り記数法を理解し、その数を表すこと。 ・$2けた \div 1けた = 2けた$(余りあり)の計算力を高めること。 ・$3けた \div 2けた$の計算力を高めること。 ・小数のかけ算やわり算の計算の仕方を理解すること。 ・既習事項を基に、題意をとらえ、正しく演算決定すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1億、1兆以上の数について命数法から記数法へ(逆も)正確に書くことができるように、位取り記数法の基礎的な理解を深める。また、ノートのマスを活用するなど工夫して練習問題に取り組ませる。 ・2位数\div1位数(余りあり)の計算を、ひっ算を活用してその計算ができるように繰り返し練習問題をし、定着を図る。 ・位取りがきちんとできるようにノートのマスを活用し、検討をつけてから商が立てられるように丁寧に問題に取り組ませる。また、繰り返し練習問題をし、定着を図る。 ・既習内容の整数のかけ算やわり算で振り返り、ひっ算を使った計算の仕方を想起させる。また、練習問題に丁寧に取り組みせ、定着を図る。 ・小数点をつける位置を丁寧に確認させる。 ・問題文に書かれた題意をとらえ、どこで演算決定を行ったのかを説明したり、話し合わせたりする。 ・必要に応じて既習事項を押さえ、立式の根拠を説明させたり、話し

		<p>合わせたりする。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数のかけ算、わり算の文章問題を理解し、正確に立式すること。 ・「長さ」「重さ」「面積」「体積」などの量の単位の相互関係に着目して統合的に理解すること。 ・円の面積について理解すること。 ・体積について理解し、活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線などの図や簡単な数字に置き換えながら、文章問題の場面を考えさせる活動を多く取り入れ、隣や班の友達と伝え合うことで一人一人が自分の言葉で説明ができるようにする。 ・確実に立式できるように、途中式を書いたり、計算の前に見当をつけてから計算したりするよう指導する。また、確かめの方法も指導する。 ・文章問題の場面を想起し、数直線や図を描いたり、簡単な数字に置き換えたりして考えさせる活動を多く取り入れ、一人一人が自分の言葉で説明ができるようにする。 ・単位計算尺の制作で形式的な単位換算の指導に終わることなく、日常のいろいろな事象と結びつけ、楽しみながら活動できるよう指導法を工夫する。 ・円の面積の公式を導くために、実際に描かれた円を切ったり貼ったりする活動を取り入れたり、図形を色分けしたりして考えさせるなどの取り組みを行う。 ・立体図形を使って敷き詰める活動をしたり、公式を導き出したりして、体積の理解を深める。また、式の中の数値や部分が何に当たるのかを図形と対応させながら考えていく。
理科 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・条件制御について理解し、それを基に実験・観察の方法を考えること。 ・実験や観察の結果をもとに考察し、自分の考えを自分なりの言葉で表現すること。 ・科学的な用語、基本的な知識などの定着を図ること。 ・学習したことを日常生活の中での事象に活用して考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたいことに関わる条件のみを変えることを繰り返し指導する。 ・変える条件と変えない条件が一目で分かるようにするために、マトリックスなどの思考ツールの活用を図る。 ・結果と考察、まとめの違いを明示的に指導するなど、単元の学習の流れを児童と共通理解して授業を進める。 ・結果をもとに考察をすることを大切にして授業を進める。自分の言葉でまとめたり、支援が必要な場合にはヒントを与えたりしながら考察をまとめるようにする。 ・学習した内容と生活が結び付くように、日頃の生活に立ち返って考えさせる。 ・学習事項と関連した既習内容を復習する時間をとり、関連付けて理解を定着させる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「物質・エネルギー」の内容や「生命のたんじょう」のように、実際に見たり、さわったりすることが難しい事柄について理解すること。 ・科学的な言葉や概念を使用して考えたり、説明したりすること。 ・予想や仮説を基に、解決の方法を発想したり、妥当な考えを作り出したりすること。 ・日常生活の科学的事象と学習内容を関連付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル実験や図、映像資料などを活用して、知識の理解だけに偏ることのないよう、教材・教具を工夫する。 ・教科書に示された用語や記号等を使用して、予想、結果や考察を科学的に記述したり、意見交換する場を設けたりする。 ・対象となる自然の事物・現象から問題意識をもたせ、実験や観察の意図を明確にもたせる。また、それらに影響を与える原因を事前に予想させる。その理由を考えさせたり、自分の言葉で表現させたりする。 ・学習事項と関連した既習内容を復習する時間をとり、関連付けて理解を定着させる。
音楽 56年	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の学びを価値づけること。 ・歌唱活動への意欲を高めること。 ・思いや意図をもち、曲想を生かした表現を工夫して歌ったり演奏したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の学びの積み重なりを明確に視覚化し、振り返りなどで価値づけていけるよう音楽ノートを作成する。 ・ハーモニーの重なり方やリズム、歌詞など、児童にとって魅力ある教材を選択し、歌う喜びや歌による音楽の素晴らしさに気付くようにしていく。 ・楽曲に対する理解や楽曲の作られた背景への理解を深めるため、ペアやグループ活動を行い対話的な活動を充実させる。

<p>図工 56年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動できるようにする。 ・用具や材料を安全で適切に使えるようにする。 ・自己肯定感をもてるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、児童が意思決定する機会を増やして主体的な活動を促す。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。 ・互いの作品を鑑賞する機会を設けて、友達の作品や表し方の良さや面白さを共有し、認めあえるようにしていく。 ・展覧会の出品作品を自分で選ぶようにして、より自信のある作品を発表していけるようにする。
<p>家庭 56年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験が乏しく、家庭生活への関心が低いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を工夫し、自分の家庭生活を見つめて課題意識をもたせ、実践的・体験的な活動を重視した授業を通して基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ・ICTを活用し、自分の生活と関連付けながら家庭生活を創意工夫できるようにする。 ・身に付けた知識及び技能を自分の生活に生かす工夫を考え、実践計画を立て、家庭において主体的に課題解決できるようにする。 ・「家庭科だより」を発行し、学習のねらいや内容を知らせ、家族が学習の意義や内容を理解できるようにして協力を得、また、家庭からの一言を依頼し、児童が家族の役に立つ喜びを実感できるようにする。 ・実践を振り返り、工夫・改善を重ねながら継続的に実践できるように、自ら課題を見いだし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実させる。 ・サポート松仙の協力を得て、実技面で遅れがちな児童への支援を充実させる。
<p>体育 5年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果より、持久力と筋力を高めること。 ・自分のめあてに応じて、練習を工夫したり、場を選んだりすることができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走や縄跳びで無理なく長時間続けられる運動を継続的に行う。また、体づくり運動を中心にうんていや鉄棒などの固定遊具を使ったり、いろいろな姿勢での腕立て伏せを行ったりする運動を通して筋力を高める。 ・学習カードや資料を活用し、めあてをもって授業に臨めるようにする。めあてを達成するために必要な活動を考えさせるなど、課題意識をもって取り組ませる。また、振り返りを行うことで次時の活動へのめあてをもたせるように指導をしていく。
<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果より、持久力と筋力を高めること。 ・自分のめあてに応じて、練習を工夫したり、場を選んだりすることができること。 ・それぞれの運動に必要な知識を理解して運動に取り組めるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力と筋力を高められるような体づくり運動を中心に行うとともに、長縄や短縄週間を生かして継続的に運動に取り組むことができるようにする。 ・学習カードや資料を活用し、毎時間自分のめあて、単元のめあてを設定する。適切なめあての設定ができるように助言を行い、自身の振り返りに生かせるようにする。また、めあてに合った練習方法や場の選択ができるように、授業の構成を工夫する。 ・病気を予防するための体づくりについて理解し、生活習慣を見直しながら実態に即した指導をしていく。
<p>外国語 5年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりとはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ること。 ・活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音すること。 ・基本的な表現も用いて指示、依頼をし、それらに応じたりすること。 ・大文字、小文字を活字体で書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が教科書の内容だけではなく、日常のことをスピーチし、日常的な物を表す語句や表現を聞く活動を取り入れる。 ・フラッシュカードに文字を表記し、文字を意識させる。 ・授業で使う言葉をパターン化し、児童が英語だけでも理解できるように自信をつけさせる。 ・書く活動を取り入れ、その都度、気を付けるところ意識するところを指導していく。
<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりとはっきりと話されれば、日常生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子を見て、話す速さや説明を工夫し、多くの児童が理解で

<p>活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要が捉えられること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や相手のこと及びの周りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり、答えたりして伝え合うこと。 ・自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。 	<p>きるよう工夫していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入にスモールトークを取り入れ、教師の話の聞いたり、自分の話をしたりする活動を取り入れる。 ・書く活動を取り入れ、その都度、気を付けるところ意識するところを指導していく。
---	---

